

わんぱく学園ニュース

平成20年 12月号 No139

初冬——葉の形は蔦(ふき)に似て緑色の光沢があり、真っすぐな花茎の頭に菊に似た鮮やかな黄色い花…そう…石蔦(つた)の花が咲く頃……花の色が、葉や茎の緑に浮いても見える明るく美しい花——。

「山蔦(やまふき)の、暮れて些庭(せわ)の、花あかり」 ~垣

福祉がまだ日常生活に密着していない時代から、いち早く将来をみすえて活動を開始され、現在の福祉社会の基盤をつくられた、言わば先駆者と言える川瀬英さんからのお便りを、ここに紹介いたします。

「福祉の移り変わり」

出雲市社会福祉協議会 事務局長 川 瀬 英

私事ですが、社会福祉の道に入って30年が過ぎました。この間、社会福祉の制度や住民の考え方も大きく変わってきました。仕事に就いたころは、福祉の仕事をしていると言ったら、「若いのに奇人な人」ですねと言われたことがありました。それだけ、福祉ということが一般ではなく、特別な人々に対するものというのが当時の風潮だったようです。

それが大きく変わったのは高齢化社会ということが、一般の人にも理解され、それが身近なものとして捉えられるようになったからだと思います。今から、25年ぐらい前に、あるところで住民の皆さんに、社会福祉の話をしました。終わって会場から出ようとしたら、中年の男性から呼び止められ、聞きたいことがあると言われました。内容は「自分の一人息子が来年大学を受験する。ついては福祉系の大学について教えてもらいたい」というものでした。私は「息子さんは福祉に興味があるのですか」と聞いたら、「それがぜんぜん興味がないと」と言われました。その会話の結論として、親として福祉の勉強をすれば自分が年老いたとき、きちんと面倒を見てくれることを期待して福

祉の大学に入れたいということでした。私は、このとき、高齢化をとおして福祉が一般化されてきたと感じました。

もうひとつの流れとして、社会福祉の主流が地域福祉になったことです。平成の時代に入り相次ぐ制度改革が行われ、平成12年(2000年)に社会福祉法が制定されました。この法律において明確に社会福祉の基本として地域福祉が規定されました。そして、この地域福祉の目的が、昭和56年(1981年)「国際障害者年」の理念となったノーマライゼーションの実現を目指すとなっていることです。障がいのある人もない人もお互いを特別に区別することなく、社会生活を共にするのが当たり前であるというノーマライゼーションの理念。法律では、「福祉サービスを必要とする人が地域社会を構成する一員として社会、文化、経済などあらゆる分野の活動に参加する機会が与えられる」となっています。

地域福祉を別の言葉で言い換えれば、地域のなかで「その人がその人らしく生きていく」ことができる環境をみんなで作っていくこと。障がいのある人もない人も、高齢者も子どもたちも、男性も女性も個人として尊重され、自分が自分らしく生きていくことができる社会。障がい者福祉の分野からでた理念が地域福祉の理念へと発展、進化していく。日本の福祉のひとつの到達点と見ることができるでしょう。

ただ一方では、高齢者や障がい者に対する公的なサービスには非常に不安があります。介護保険制度や後期高齢者医療制度、あるいは年金。そして障害者自立支援法の問題。とりわけ障害者自立支援法は、障がい者が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指して、といいながら、障がい者団体などから様々な問題点が指摘されています。いったい誰のための法律や制度なのか。今、国や全国の自治体では21年度からの3カ月の第2期「障がい福祉計画」の策定作業を行っています。個人の尊厳が保持され「その人がその人らしく生きていく」地域福祉の理念を最大限尊重して欲しいと願っています。



～さんいん子ども環境探偵団

わんぱく学園～

学園ニュースN0138号にてお知らせしていました「一畑電車に乗って無人駅の清掃活動」に参加した、平田にあるエルパティオ三葉園に通所している長岡真弓さんからの便りです。

～みんなで電車に乗ってGO！

町の駅(無人)をきれいにしよう～

三葉園 長岡 真弓

11月9日に雲州平田駅に9時20分集合しました。集まったのは14人。ホウキやちり取り、新聞紙、バケツ等を手に持ち、32分発の松江駅行きの電車に乗り、隣の布崎駅で降りて、約30分ほど駅の窓ふき、天井のクモのすをホウキで取ったり、トイレのそうじをしました。

少し寒かったけど、みんながそれぞれ出来るところまでにぎやかに頑張っていました。私ははじめて新聞紙が雑巾代わりにぬらして汚れが落ちる事を知りました。土江先生が窓をふきながら言っておられました。「昔は、窓の汚れを取る時には使い古した布や新聞紙を使ってたよ。新聞紙には印刷の油がついているから汚れがよく落ちるからかな？」と。その話を聞いて「とてもいい考えだなあ、昔の人は私が考えつかない事を考え生活していたのだな。「これこそ豆知識だ」と思いました。この時に山陰中央新報社の記者の人が来ておられ、そうじをしている所の写真を映したり、田中会長さんと土江先生に話を聞いたりしておられました。多分記事にして新聞にのると思いましたが。楽しみの一つです。



～ほうき・バケツを持って一畑電車を乗りついで...～

無人駅、布崎駅にて

新聞紙で窓ふき

布崎駅から今度は10時15分発、出雲行き電車に乗り、旅伏駅に下車し30分位そうじをしました。旅伏駅は余りよごれていませんでした。少し待ち時間があったのでスケッチブックにそれぞれ思い思いの絵を描きました。ちなみに私は、目の前にある家を書きました。二か所の駅はとてもきれいになりました。きれいになると気持ちがいいですね。お客様が気持ち良く座ってくれて喜んでくれたら私たちも心からうれしく思います。ここで新聞社の方とは別れました。「わざわざ、わんぱく学園のためにありがとうございました」。そうじを終え11時18分発に乗車して川跡駅で乗り換えて出雲大社前で降りました。大社駅で、電車のドアの開け閉め、マイクを使ってアナウンスを体験させていただきました。普段は体験する機会がない私は、今回のはじめての体験はとても新鮮でした。「運転手さんはこうやって事故にあわないように気をつけて毎日しておられるのだ」と分かりました。「運転手さん、ありがとうございました」「また機会があったら、やってみたいな」と思いました。近くの食事店でお昼ご飯を食べました。私は自分で作った弁当を持参しました。「沢山のひとと一緒に食べるとおいしいな!」と思いました。しばらくしてお店を出、大社の正面の道から、お願いごととしてお祈りしました。出雲大社は特にこの頃人が多いように感じました。そして、14時11分発の電車に乗り、平田駅に帰りました。

一日とても有意義なボランティアな清掃活動が出来たと思えました。地域のためにも何かをする事も大切な事だし、このような活動も世の中のためにも良いことだから、わんぱく学園のみんなも、これからこんな機会がふえるといいな、そして世の中そんな人がふえるといいなと思えました。

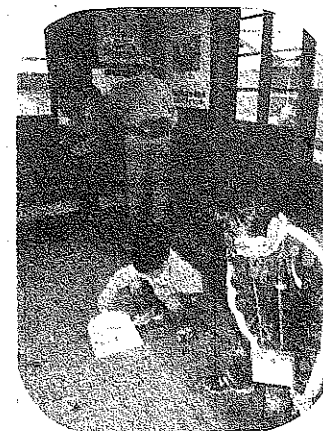
参加したみな様、本当にご苦労様でした。何より、雨がふらなくて良かったです。



～電車のドア↑開けしめに挑戦～



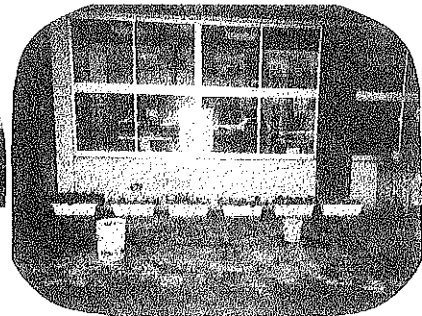
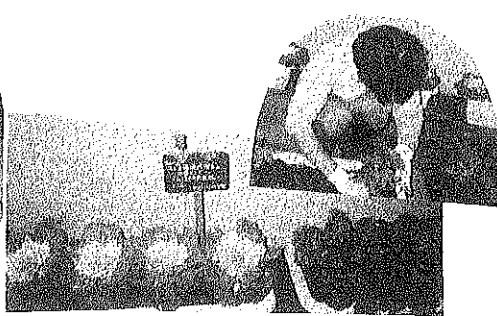
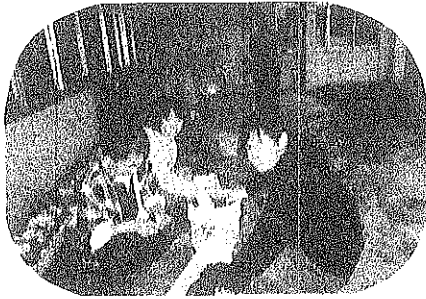
～車内放送「つぎは、出雲大社です!」～



～無人駅 旅伏駅の掃除タイム

～出雲市役所平田支所玄関前に
花をプレゼント～

さんいん子ども環境探偵団の活動の一つとしわんぱく学園は、市民が利用する色々な窓口である出雲市役所平田支所玄関前に葉ボタンの花を植えたプランターをプレゼントしました。街をみんな一人ひとりの手で美しくする運動の大切さも、この活動を通して学びました。



◆12月の「わんぱく学園」のメニューは下記の通りです。

12月14日	Xmasパーティー (福田・山口・山本・土江) ・ゆ〜ちゃんと歌おう！ [アリエ おちらと] えっ！ ゆ〜ちゃんって？ 来てのお楽しみ！！ ・100円のプレゼント交換(100円のプレゼント準備して来てね) ・ビンゴゲーム、ケーキ、果物等もあるわよ(学園補助)
21日	粘土コネしてあそぼ！ (担当 安食・尾原・土江) ・囲炉裏囲んでカレーライス[おちら]・材料費200円

★集合時間 9時30分

★集合場所 文化館前駐車場

★学園問い合わせ先：土江《携帯 090-7774-5913》

〔文責 土江 和世〕

金融不安にはじまり、不況の波が吹き荒れたこの一年。
この機会に原点にもどり、ものを見つめ直すいいきっかけになるかも
知れませんね？。

今年もいろいろな遊び(活動)を楽しむなかで、純粋な子ども達の
想いに励まされた日々でした。

来年も、その心を大切に共に楽しく過ごしたいなぁ～と思っています。

どうぞ、よいお年をお迎え下さいませ。